

公共施設等をめぐる状況

公共施設の老朽化

人口減少、少子高齢化、ニーズの変化

財政状況の変化

掛川市公共施設等総合管理計画 平成28年3月

将来更新費用 約70億円
用意できる財源 約40億円

約30億円の不足

【新設】から
【賢く長く丁寧に使う】へ

長寿命化と安全確保

保有総量の適正化

運営管理の適正化

掛川市公共施設再配置方針 令和元年8月

序章 公共施設再配置方針について

【公共施設再配置方針の位置づけ】 公共施設再配置計画の策定に向けた現時点での市の考え方をお知らせするもの

第1章 縮減目標

約30億円の不足を解消するため、今後50年間で何をどこまでやるか

方向性

インフラ⇒現状維持
公共建築物⇒縮減

手段

延床面積の縮減により
更新費及び維持管理費を削減

延床面積の縮減目標
約25%

第2章 再配置検討の方向性

「縮 充」

統廃合・複合化等の機会を活用し、既存施設ではなし得なかった施設サービスの質的向上を図る

「用途別検討」

＜各地域に必要な施設＞ 地域ごとに複合化⇒交流・賑わいの創出
＜市全域で検討すべき施設＞ 用途ごとの検討 ・ 公民連携の拡大

第3章 施設再配置に向けた評価

ステップ1

【一次評価】
ハード面・ソフト面の状況に応じたポートフォリオ分析

ステップ2

【二次評価】
公共性、民間による実施可能性、立地特性などによるフローチャート

ステップ3

【最終評価】
まちづくりの方向性や政策的判断を踏まえた総合的評価

評価結果

施設ごとに以下を設定
【方向性】
継続、統合、複合化、減築、廃止、譲渡
【時期】
I期～V期 ※1期10年

施設名称	方向性	第1期 2019～2028	第2期 2029～2038	第3期 2039～2048	第4期 2049～2058	第5期 2059～2068	考え方
〇〇庁舎	継続		統合				長寿命化しつつ継続
〇〇小学校	統合		統合				●と統合
〇〇センター	譲渡						民間譲渡を検討
△センター	複合化			複合化			他施設との複合化を検討

客観的・機械的評価

政策的評価

第4章 公共施設の再配置（たたき台）

1 再配置(案)

※検討中

2 施設管理の方針

＜再配置の方向性を踏まえた施設管理＞

【「方向性」＝「継続」の施設】

長寿命化を図り、既存施設を長く安全かつ適正に管理

【「方向性」＝「継続」以外の施設】

設定された「時期」までは安全かつ適正に管理し、

「時期」到来後、「方向性」を基本として個別具体的に検討

＜余剰施設の整理＞

再配置等により余剰となった施設・土地は、

原則として解体または譲渡し、財産処分を進める

第5章 再配置計画策定に向けて

【計画の位置づけ】 各施設の「再配置検討の方向性」や「再配置検討の時期」を示すもの ※実際の事業化にむけては、個別案件ごとに関係者と協議・調整、実施計画作成等のプロセスを通じて検討
社会経済情勢・市民ニーズの変化、進捗状況を踏まえ、10年ごとに計画を見直す（PDCAサイクルによる改善）

【情報共有及び市民ニーズの把握】 地域における説明会や市民アンケート調査などを通じ、市民との情報共有、議論、ニーズ把握に努める

行財政改革審議会との議論

議会との議論

公共施設再配置(案)の修正

市民との情報共有・議論
・ニーズ把握

掛川市公共施設再配置計画 令和2年10月策定予定